

第35回テーマ展

# 日本銀行 あの日々の記録

—アーカイブ資料にみる“お金の安心”—

2010年3月18日～5月16日

今回のテーマ展では、“お金の安心”を担う日本銀行が、開業時や関東大震災時に果たした役割について、アーカイブ所蔵資料と貨幣博物館所蔵の紙幣・貨幣を通して、ご紹介します。

日本銀行金融研究所には、“貨幣博物館”とは別に、日本銀行が1882(明治15)年の開業時から作成してきた文書や帳簿を中心に歴史的資料の収集・保存・公開を行う“アーカイブ”という施設が設置されています。

あわせて、日本銀行アーカイブの仕事や所蔵資料の概要についても、パネルによりご紹介します。

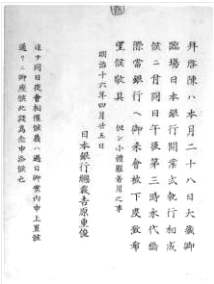
## “お金の安心”を目指して —にちぎん設立と国立銀行紙幣の整理—

### 日本銀行の設立

日本銀行は、銀行券の一元的な発行によるお金の価値の安定と、日本銀行を中心とする近代的な通貨・金融制度の確立を目的として、1882年に設立されました。

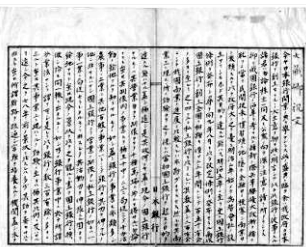
### 日本銀行開業式 招待状

1883年『本行創業に関する書類』より  
日本銀行は、1882年10月10日、永代橋のもと(日本橋箱崎町・旧北海道開拓使出張所の建物)で開業しました。開業式は、建物・附属施設の工事完了後、開業翌年の4月28日に行われました。



### 開業式における松方正義の祝辞

1883年『本行創業に関する書類』より



松方正義大蔵卿は、開業式で祝辞(「祝文」)を述べました。松方正義は、1881年に大蔵卿に就任し、欧州の中央銀行をモデルに、短期間で日本銀行の設立準備を進めた人物です。「其地位、官民の中間に立ち、……全国の貨財を流通し、善く聚め、善く散し、操縦離合 各々其宜を得せしむるの一大

機関に当り…」とあります。松方正義は、日本銀行設立の準備を進める際に、「中央銀行は経済に“お金”という血液をおくる心臓のような存在である」と述べています。

### 国立銀行紙幣消却に関する命令書

1883年5月11日

日本銀行は、開業時には銀行券の発行は認められていませんでした。銀行券に関する最初の仕事は、国内で流通していた巨額の国立銀行紙幣を整理(消却)することでした。1883年5月、日本銀行が国立銀行紙幣消却の事務を行うことが定められ、その具体的な方法を定めた命令書が松方正義卿より下されました。



5月5日に出された国立銀行条例改正布告に基き、各国立銀行は紙幣整理のための資金を日本銀行に預け、日本銀行はそれを利付国債で運用し、その利子により国立銀行紙幣を整理しました。日本銀行は、国立銀行紙幣を1897年までの15年で計画的に整理(消却)していく体制を整えました。

### 信用が失われた紙幣 国立銀行紙幣

国立銀行紙幣は政府紙幣とともに、西南戦争当時に大量に増発されました。金貨や銀貨と交換(兌換)できない不換紙幣で、紙幣価値は大幅に下落し、紙幣に対する信用が大きく揺らいでいました。



## “お金の安心”を目指して —にちぎん券の発行—

### 日本銀行兌換銀券の発行

「日本銀行条例」(1882年6月)第14条では、「日本銀行ハ兌換銀行券ヲ発行スルノ権ヲ有ス」、ただし、この銀行券を発行する時は「別段ノ規則ヲ制定」するとされ、すぐには銀行券を発行できませんでした。

紙幣の回収・整理が進み、紙幣の価値が安定してきた1884年5月、「兌換銀行券条例」が公布され、日本銀行は、“銀貨と交換できる紙幣”=日本銀行兌換銀券を発行することになりました。

1885年、最初の日本銀行券が発行され、“お金の安心”を担う中央銀行としての基礎が整いました。

### 兌換銀行券発行事務に関する規程

1885年1月

日本銀行は、「兌換銀行券条例」公布の翌年、兌換銀行券発行事務の規程(手続き)を定め、大蔵卿の認可を受けました。この規程に基づいて発行準備を進め、同年5月から兌換銀券の発行を開始しました。



第2条では、表面へ「総裁ノ印」「文書局長ノ割印」、裏面へ「金庫局長ノ押印」をすることが定められています。

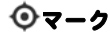
総裁の印 文書局長割印

第11条では、銀行券と銀貨の引換について定められ、実際の銀行券の表面に兌換文言が記載されています。1円の日本銀行兌換銀券は、本位貨幣(正貨)である1円銀貨と交換(兌換)することができました(銀本位制)。



最初の日本銀行兌換銀券 表面・1885年発行開始

開業当初から使われている



現在の日本銀行券にもあるマークは、「日」という漢字の古代書体の一種で、日本銀行創立当時から使用されています。

マークがある日本銀行株式仮券状

1882年



日本銀行株式仮券状部分拡大

日本銀行は日本銀行条例に基づき、一種の株式会社として設立されました。

株式仮券状は、日本銀行の開業前につくれ、第1回払い込み(1882年9月)が行われた際に株主に交付されました(1株の額面200円、1882年夏に募集開始)。

マークは、最初の日本銀行兌換銀券や開業式のメニューにも描かれています。



最初の日本銀行兌換銀券に描かれたマーク



日本銀行開業式メニュー  
1883年『林権楽に関する書簡』より

日本銀行券発行開始 周年年表

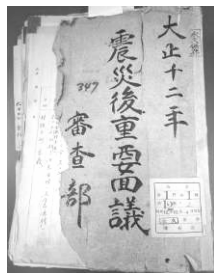
1882(明治15)年 6月	日本銀行条例 第14条「日本銀行ハ兌換銀行券ヲ発行スルノ権ヲ有ス」
10月	日本銀行開業 (日本銀行開業式)
1883(明治16)年 4月	国立銀行条例改正、国立銀行紙幣消却に関する命令書
5月	兌換銀行券条例
1884(明治17)年 5月	兌換銀行券発行手続命令書
7月	兌換銀行券発行處務規程承認
1885(明治18)年 2月	日本銀行兌換銀券10円券発行
5月	日本銀行兌換銀券1円券、100円券発行
9月	日本銀行兌換銀券5円券発行
1886(明治19)年 1月	日本銀行兌換銀行券交換規則
12月	毀損兌換銀行券交換規則

緊急時の「お金の安心」

一 関東大震災と金融の円滑化一

関東大震災と日本銀行

1923(大正12)年9月1日(土)の関東大震災により、日本銀行本店も類焼し被災しました。しかし、日本銀行本店は、週が明けた3日(月)には窓口を開けて営業を開始しました。焼損した紙幣などの引換えに殺到した人々の請求に応じたほか、金融・経済の安定と復興のための施策に努めました。



災害に対する日本銀行の覚悟

1923年9月11日『震災後重要回議』より



日本銀行は、大震災という非常事態に際し、お金の安心を守るための対応方針を、木村副總裁の声明として発表しました。その方針は、翌12日、各新聞で報道されました。

声明では、被害を受けた金融機関を速やかに復興させ「金融界の安定」を保ち、「一般財界回復の機運を促進」させるため、日本銀行は、「臨機最善の手段方法」により資金融通などの措置を講じていくことを述べています。

非常金融対策により、9月中旬までに東京市内のほとんどの銀行が営業を再開し、預金者の平静さを保つことができました。

9月末には大震災のため支払いができなくなった震災手形に関する勅令が公布され、日本銀行が震災手形の再割引を行うことで商工業者を救済しました。

大震災後に急遽つくられた紙幣

関東大震災により、流通している紙幣が損傷し、また大蔵省印刷局の工場(大手町の工場や王子抄紙部)が被災し紙幣製造が困難となりました。このため、紙幣に不足が生じる万一の事態に備え、急遽、200円券という高額の紙幣が大阪でつくられました。

幻の日本銀行券 甲貳百円券

1923年製造 見本券

国債証券の用紙を用い、急遽大阪でつくられました。

懸念された紙幣の不足はなく、印刷局の工場も復旧したため、甲200円券は、発行されることなく、1926(大正15)年4月に全て消却されました。200円券は「兌換銀行券条例」に定められた最高額面の紙幣で、それまで発行したことがありませんでした。



(裏面)

甲貳百円券製造に関する帳簿

1923年『製造兌換銀行券内訳帳』より(写真パネル展示)

甲200円券の製造は11月8日に大蔵大臣より認可があり、11月24日には印刷局から日本銀行への最初の引渡しが行われました。この帳簿には、甲200円券の引渡し日毎に、枚数と金額が記されています。全部で150万枚印刷されました。



緊急時の「お金の安心」

一 損傷銀行券の引換え一

震災時の紙幣の引換え

日本銀行は、大震災で損傷した紙幣などについて、9月4日より引換えの請求に応じ、臨時的引換え事務室を設置するなど、被災者のためにできる限りの利便をはかりました。

損傷銀行券引換え高の記録

1923年10月10日『審査部情報』より

震災後約1ヶ月間の損傷銀行券の引換え高などを書き上げたものです。震災後1年間では約200万円分の銀行券が引換えられていることから、その約75%が地震発生から約1ヶ月間で持ち込まれていることがわかります。



**■ 損傷銀行券の引換え基準のルーツ**

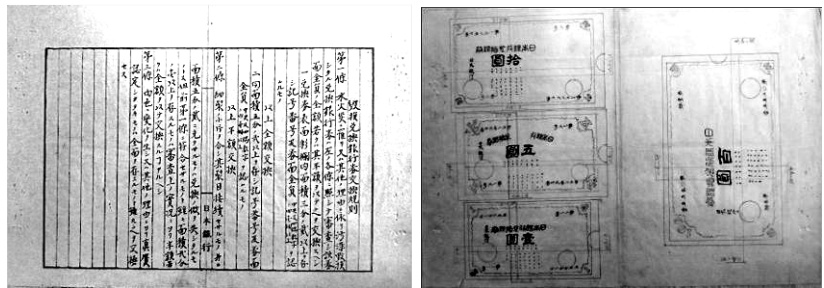
日本銀行では、銀行券が破れたり燃えたりした場合に、新しい銀行券との引換えを行っています。引換え基準のルーツは 1886 年までさかのぼります。

現在の損傷銀行券の引換え基準もほぼ同じです。  
日本銀行ホームページ 損傷銀行券の引換え基準  
<http://www.boj.or.jp/type/exp/bn/sonsyo.htm>  
をご覧ください。

**● 毀損兌換銀行券交換規則**

1886 年

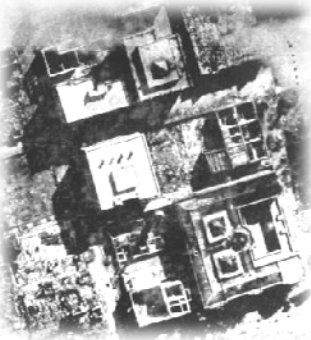
日本銀行券発行開始(1885 年)の翌年、損傷銀行券の引換え規則を定め、大蔵大臣の認可を受けました。



**関東大震災 日本銀行本店建築の被害**



関東大震災で類焼した本店本館



1923 年 9 月 1 日  
午前 11 時 58 分  
震源地 相模湾西部  
マグニチュード 7.9  
死者・行方不明者 10 万人以上

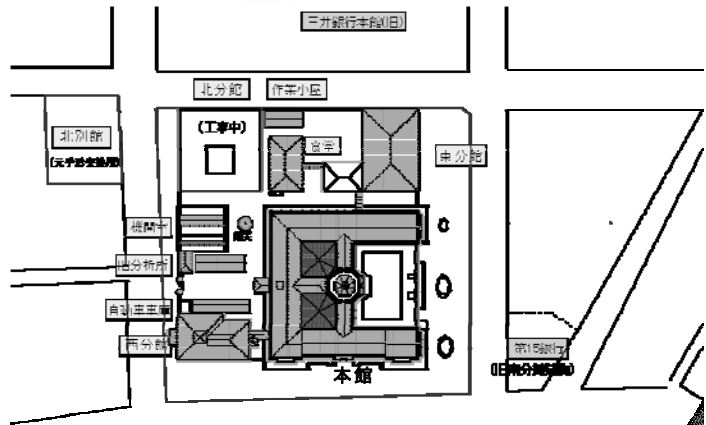
上空からみた本店被災状況

**本店の被災**

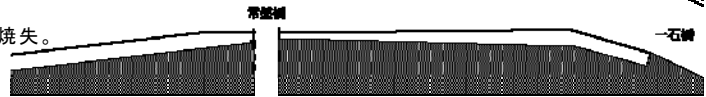
9 月 1 日(土)午前 11 時 58 分 関東大震災発生  
落成直前の北分館(鉄筋造り)大きく損傷を受ける。

午後 5 時~6 時  
西方(印刷局方面)・北方(本石町方面)からの延焼により火の手に襲われる。西分館、東分館焼失。北分館も類焼。

午後 9 時  
食堂焼失。本館は鉄扉により遮られる。同じ頃周辺建物(三井銀行、三越呉服店等)が類焼。本店南側前庭や西面の空き地にいた避難者の荷物にも火が及び、本店全周が猛火で包囲される。



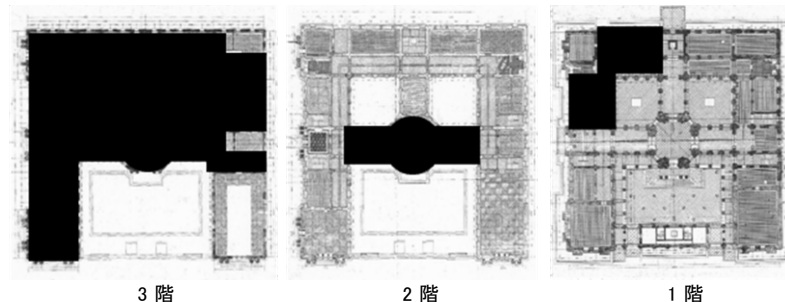
9 月 2 日(日)午前 1 時  
本館のドームと天窗より火が入り建物内部を焼失。



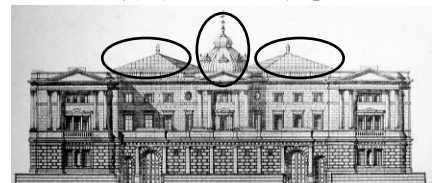
**本店本館の被災**

1896 年に竣工した本館(設計辰野金吾)は、建築中の 1891 年 10 月に起こった濃尾地震(マグニチュード 8)の経験から、耐震設計を見直し、当初予定していた総石造りではなく、石積み煉瓦造りとしました。堅牢な造りであったことから、関東大震災では地震そのものによる損害は小さく、周囲からの延焼にも長時間耐えていました。しかしドーム部分(鉄骨・明かり窓付き)および天窗 2 カ所(方形・総ガラス張り)から火が入り、屋根と 3 階のほぼ全て、1,2 階の一部が焼失しました。

本館焼失図(黒い部分が焼失部分)



火が入ったドームと天窗



震災時に使われていた日本銀行券  
中央に本館が描かれている。  
甲 100 円券(1900 年発行開始、裏面)

日本銀行本店被害状況の記録写真『関東大震災による本店建物被害写真帖』より

本館

1890(明治 23)年着工  
1896(明治 29)年竣工  
石積み煉瓦造り亜鉛葺  
3階建て

大震災被害状況  
「一部焼失」



東分館

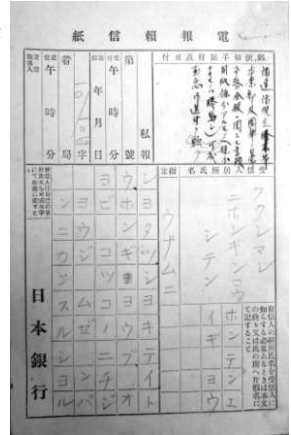
1898(明治 31)年着工  
1901(明治 34)年竣工  
煉瓦造りスレート葺  
2階建て

大震災被害状況  
「一部残存セルモ建物ト  
シテ實際の価値ヲ失ヘ  
ルヲ以テ全部喪失ト見做  
ス」



日常業務に必要な  
書類・用紙の送付を  
求める日銀本店から  
福島支店への電報  
9月3日

『要件 雑(関東大震災)』  
福島支店より



西分館

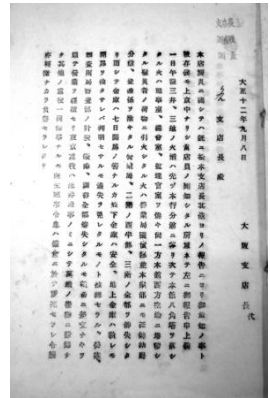
1893(明治 26)年着工  
1896(明治 29)年竣工  
石積み煉瓦造り素銅葺  
2階建て

大震災被害状況  
「全部焼失」



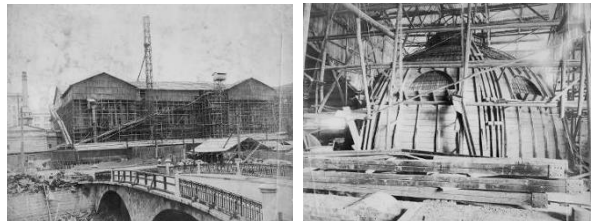
本店被災状況の報告  
9月8日  
『震災関係当店調査』  
大阪支店より

本店本館に火が入り、  
各室が焼失した時の  
状況を報告している。



東京の被災状況  
「東京市附近火災地域及罹災民集団地要図  
九月六日夜マデノ状況」(陸軍第四師団司令部作成)  
『震災ニ関スル陸軍省情報、銀行集会所報告』大阪支店より

参考:震災後の本館修理の様子



長野宇平治が修理設計  
1925年1月 修理着工  
1926年末 竣工落成

修理方針:  
「本館原形ヲ保存シ従来ノ設計を  
踏襲シ、外見モ之ニ依リ(後略)」  
(修理写真:日本銀行情報サービス局)

**日本銀行金融研究所アーカイブのご紹介**  
アーカイブとその所蔵資料についてはホームページ  
<http://www.imes.boj.or.jp/archives/index.html>  
をご覧ください。

主な参考文献

- 『日本金融史資料』明治・大正編(日本銀行調査局)
- 『図録日本の貨幣』7巻,8巻(日本銀行調査局,1973・75年)
- 『日本銀行沿革史』第1輯,第2輯
- 『日本銀行百年史』第1巻,第3巻(日本銀行百年史編纂委員会,1982・83年)
- 『日本銀行八十年史』(日本銀行史料調査室,1962年)
- 『辰野記念 日本銀行建築譜』(1928年)

日本銀行金融研究所  
**貨幣博物館**  
電話:03-3277-3037(直通)  
〒103-0021  
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1  
<http://www.imes.boj.or.jp/cm>